

各種監査について

1 定例監査

合規性、経済性、効率性、有効性の観点から、予算執行、財産の管理等について、適切な執行がなされているかを監査しました。

平成24年定例監査では、都の全28局を対象に、平成23年度の事業執行分について監査を実施しました。

● 監査実施状況

	監査実施箇所	実施率
本 庁	140箇所	100%
事業所	298箇所	39.3%

監査の結果

18局・509億円の
歳入・歳出等について

指摘 120件

意見・要望 6件

指摘金額 12億1,020万円

主な指摘事項

契約をまとめることで、競争性の確保を求めたもの

福祉保健局・病院経営本部・中央卸売市場

状 況

物品等の購入契約に当たり、予定価格が160万円を超える場合には、競争入札としなければなりません。しかし、同種の物品を同時期に購入するに当たり、契約を分割して予定価格を小額にし、入札を行っていませんでした。

指 摘

入札により競争性・透明性を高めることは、税金の無駄づかいや事故の防止のために定められているものです。

そのため、手続を守って、契約を行うよう求めました。

旅券申請窓口の待ち時間についてサービス基準の遵守を求めたもの

生活文化局

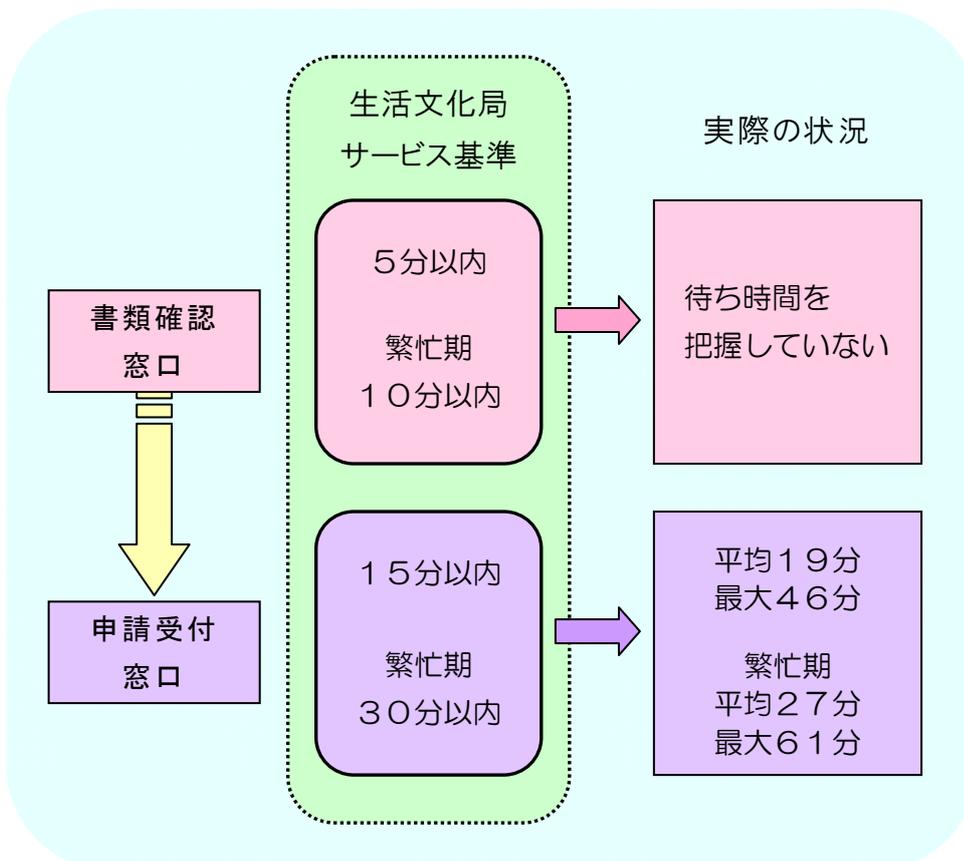
状況

生活文化局では、都内4か所にある旅券（パスポート）の交付窓口の業務を外部委託しており、サービス基準として、窓口の待ち時間などを仕様書により定めています。

しかし、受付窓口の待ち時間について、サービス基準より長くなっていました。

指摘

局に対し、待ち時間の状況を確認した上で、混雑時には窓口を増やすなど、待ち時間を減少させ、サービス基準を遵守するよう指導することを求めました。



工事記録映画の作成を計画的に行うべきもの

水道局（指摘金額 1億3,617万円）

状況

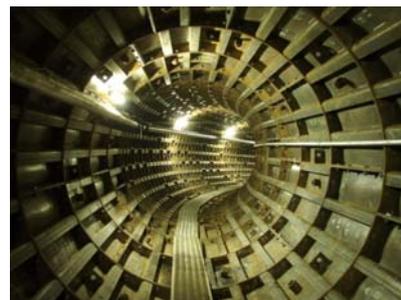
水道局の多摩丘陵幹線・主要新設浄排水施設の工事では、工事内容と工事技術の記録等のため、工事記録映画を作成しています。

局は、毎年度、撮影回数のみにより契約していたため、当初の工期よりも延びたことに伴い、撮影箇所が増加しており、撮影にかかる費用が増加しています。

指摘

工事記録映画は、工事の内容が変わらなければ、撮影すべき内容も変わらないはずです。

工期の延長により、撮影箇所が増加し、撮影費用が増加している現状は適切ではなく、記録映画の作成を計画的に行うよう求めました。



多摩丘陵幹線送水管
シールドトンネル

◎ 東京都財務諸表について

東京都では、平成18年4月から複式簿記・発生主義会計の考え方を取り入れた新たな公会計制度を導入し、東京都財務諸表を作成・公表しています。

東京都監査委員は、この財務諸表についても監査を行っています。

平成24年定例監査において平成23年度東京都財務諸表について検証を行った結果、東京都会計基準に準拠して作成されているものと認められました。



財務諸表